

# センター事業 活用事例

グラフィックデザイナーをベースに  
マルチな活動をしている佐藤真代表。  
オリジナルブランドのTシャツをプロデュース。  
まもなく販売に着手する。



## 創業支援室の利用

# 受注産業型の弱みから抜け出し 自らモノづくりに進出する

デザイナーなどのクリエイター系の仕事は、しばしば対価を抑えられて事業としては不安定に推移する傾向がある。そのような不安定要素の多い受注産業型事業形態からの脱却を図り、自らモノづくりに関わって活路を探る。

### 守備範囲の広いマルチプレーヤー

秋田市のグラフィックデザイナー佐藤真さんは、東京でデザイナーとして働いたのち、Uターンして秋田でタウン情報誌のスタッフとしてエディトリアルデザインを担当した。その後、仙台を拠点にして音楽雑誌の制作スタッフとしてカメラマン、ライター、デザイナーなどの仕事にも携わった経験を持つ。また、自らもライブハウスやクラブでDJを行うなど音楽人としての一面をもち、毎年男鹿市で開催される「男鹿ナマハゲロックフェスティバル」にもブレンとして関わり、ポスターなどのトータルデザインを手がけている。

### 受注産業型事業からの脱却を目指す

仙台から戻り秋田を拠点にして本格的にデザイン事務所を開設しようとした3年前、開業資金の不足を補うためにあきた企業活性化センターのアドバイスで県庁第二庁舎の創業支援室に入った。

「創業支援室に入っていた時期に東日本大震災が起こり、その影響で仕事が激減しただけでなく仙台方面の取引先に未収金が発生したりしてかなり苦労しました」(佐藤さん)

そのような辛酸もあって、受注産業型の事業形態か

### 佐藤真デザイン事務所

〒010-0925  
秋田県秋田市旭南2丁目6-20  
GNオフィスビル201  
Tel./Fax. 018-811-2026  
携帯電話. 090-260-3819  
E-mail makoto-d@cna.ne.jp

らの脱却を図り自らモノづくりに関わっていききたいと佐藤さんは考えている。

志を同じくする男鹿市の縫製工場との連携で釣りをコンセプトにしたオリジナルブランドの立ち上げ構想が進行中で、間もなく売り出す予定である。

### 秋田発のモノづくりに意欲を燃やす

あきた産業デザイン協議会にも加わり、秋田発の新しいモノづくりにデザイナーとして関わっていききたいと考えている。つくりたいもののイメージはいくつかあり、そのうちの一つは、自分自身がライブハウスDJとして使っている機材の改良品。既存の製品は武骨なので、デザイナーの感性でスタイリッシュなものをつくりたいと言う。これについては県内の製造業の企業と具体的な話が進んでいる。

音楽関係の機材については自身の音楽業界のネットワークを利用して販路開拓できるが、音楽以外の分野の商品開発を行う際には、あきた企業活性化センターから販路開拓の指導を受けたいと考えている。



- 1 音楽イベントのポスターからガイドブック類まで守備範囲は広い。
- 2 縫製工場との連携でアパレルのデザインも手がける。
- 3 以前関わっていた音楽雑誌ではカメラマン、ライター、エディトリアルデザインまで担当していた。
- 4 音楽や釣り、食べ歩きなど多彩な趣味を持ち、それらも仕事につながっている。

### 創業支援室

創業・起業家や新事業分野進出を目指す意欲的な企業に、事務スペースを提供します。インキュベーション・マネージャー等への日常的な経営相談が可能です。

【制度の利用・お問い合わせについて】

あきた企業活性化センター／企画・総合相談担当まで。

### 事業の解説